

# 地方観光協会の旅行業資格取得について

## ～地域資源を生かした着地型観光推進の取組み～

### 1. 着地型観光とは

日本人の旅行に対するニーズは多様化、高度化してきており、旅行スタイルは従来の「通過型」「団体型」の物見遊山的な旅行中心から「体験・交流型」「個人型」に重心を移す方向に広がりつつあると言われている。また、2007年以降に大量退職を迎えた「団塊世代」を中心に、通り一遍のツアー旅行では飽き足らず、時間や費用がかかっても、より満足度の高い旅行を求める志向が強い層も出現している。

こうした変化があらわれるなか、従来のような大手旅行会社がツアーを造成して都市部で大量集客を行い観光地に送り込むという形態の観光（＝マス・ツーリズム）だけでは、旅行者のニーズに対応しきれなくなっている。

そこで、多様化するニーズに合わせて新しい旅行商品が求められることになるが、マス・ツーリズムではなく、その地域ならではの体験や交流を盛り込んだ旅行商品を造成するとしたら、その地域のことをよく知っている地域の人々・団体等が企画するのが最もよい。このような発想で、地域の人々・団体等がその地域の歴史、文化、産業、自然、生活など（＝地域資源）を旅行商品として仕立て、旅行者に提供するものが「着地型観光」であり、各地で様々な取組みが行われているところである（なお、着地型観光に対して従来型のマス・ツーリズムのことを発地型観光と呼ぶことがある）。

各地で着地型観光への取組みが増えている背景には、こうした旅行ニーズの変化への対応の他に次のような事項を挙げることができる。

◎インターネットの普及や通信速度の高速化により情報の受発信が容易になったこと。

着地型の旅行商品を造成して販売する側は、ホームページやブログなどを活用することでチラシや広告などの紙媒体を用いた場合に較べてはるかに低コストかつ即時性の高い情報発信を行うことができるようになった。またブロードバンド化により多くの画像や音声、動画なども利用して地域の魅力を宣伝することが容易になった。逆に旅行者もこうした情報をネット経由で自由に得ることが可能となっている。

◎自家用車の普及、高速道路網の拡充、新幹線の路線整備、航空会社間の競争による航空運賃の低廉化など、交通手段の選択の幅が広がったこと。

交通手段の選択の幅が広がったために競争原理により運賃が下がり、団体運賃のメリットが相対的に小さくなったことから、旅行をするのに往復の交通手段込みで団体ツアーに参加する必要性が小さくなった。またマイカー利用で現地での観光を自由に選択という旅行スタイルも広く普及した。こうしたことから現地での観光のみを企画・販売するという商品が成立する余地が広がった。

◎地域産業の衰退、人口の流出、少子化・高齢化の進行といった問題を解決するために観光振興をはかる地域が増えたこと。

産業衰退などに起因する人口流出、人口構成の歪みなどが進展し、それに伴い地域経済の活力低下が著しく、都市と地方との二極化が進行している。そうしたなかで地域活性化のために交流人口の増大をはかる目的で観光振興に力を入れる自治体が増えており、着地型観光の考え方はこうした施策との整合性が高いと考えられる。

## 2. 観光協会による旅行業資格取得の動き

着地型観光に取り組む主体としては、地域の旅行会社やまちづくりNPO、各種市民団体、宿泊施設の事業者等々様々なものが考えられるが、このところ地方の観光協会が旅行業の登録を行い、着地型観光に積極的に取り組むケースが見受けられるようになった。本県においても2007年に平戸観光協会（平戸市）、08年には長崎国際観光コンベンション協会（長崎市）がそれぞれ第3種旅行業者としての登録を行い、旅行業者として営業を行っている。

こうした動きのきっかけは07年5月の旅行業法改正である。この改正において第三種旅行業者でも一定の範囲においては募集型企画旅行を実施できるようになった。すなわち、それまで第三種旅行業者は募集型企画旅行を実施することができず、旅行者の依頼に応じて手配する手配型旅行の取扱いのみを行うことができたが、改正により隣接する市町村までを範囲とする旅行に限定されるものの募集型企画旅行を取扱うことが可能となったのである。

第三種旅行業は必要な営業保証金と基準資産がいずれも300万円と財産面でのハードルが低い

### 募集型企画旅行と手配旅行の違い

種 別	内 容	第3種旅行業者による取扱いの可否
募集型企画旅行	旅行会社があらかじめ旅行内容（目的地・旅行代金・日程など）を定めて旅行参加者を募集して実施するもの。一般的にはパッケージツアーと呼ばれている。	改正前：不可 改正後：隣接する市町村の範囲で可能
手配旅行	消費者の希望に応じて旅行会社が旅行手配を請け負うもの。その手配に必要な実費と手配手数料を旅行会社に支払う。	改正前から可能

ため小規模な事業者でも登録が比較的容易であるが、扱える商品の範囲が広げられたことからより幅広い参入が促されることになった。

国土交通省はこの改正の目的を「地元の観光魅力を熟知した中小の観光関係者が主体となった創意工夫に満ちた旅行商品の創出を促す」ためとしており（「第3種旅行業務の範囲の拡大について」2007年4月、国土交通省）、まさしく着地型観光への取組みの促進を目指した改正であったといえよう。

### 3. 平戸観光協会の取組み

社団法人平戸観光協会が07年8月に第3種旅行業の登録を行った大きな理由の一つは、収入源の確保である。同協会の運営財源は会員からの会費、行政（平戸市）からの各種補助、事業収入（管理有料道路である平戸大橋の通行料、売店の売上げなど）に依っていた。このうち会費収入については会員の増加が見込めないために今後の伸びは期待できず、また行政からの補助も削減され、個々の事業についての補助は引き続き見込めたものの、協会の運営を維持するための運営補助はいずれ大幅に削減される見通しとなっていた。そうしたなかで協会を維持していくために

事業収入の拡大を図る必要があり、その一環として法改正を機に旅行業を手がけることになったのである。

折しも全国公募により前年の06年7月に就任した事務局長が旅行会社の出身で旅行業の経験が豊富であり、旅行業務取扱管理者の有資格者でもあったことから比較的スムーズに事が運び、業法改正後、観光協会として九州では唐津に次ぐ2番目と比較的早い時期に第3種旅行業の登録を行った。

平戸観光協会が旅行業を手がけることになった第一

**ガイドと行く西海国立公園 ひらどの山旅2泊3日**  
ツアー参加料金 23,900円～33,400円

**古来より続く霊峰、志々伎山**  
平戸の南端にある志々伎山は、標高347m、古期安山岩でできた山で、山頂が鋭く尖り、十城別王に因む霊峰とされています。山頂には王が祀った祠があり、志々伎神社の起源です。十城別王を祭神とする志々伎神社の上宮は山頂に、中腹には中宮が鎮座し、山麓には阿彌陀寺があります。神社への参詣とした山道を登る時、歴史の古さと、先人の心に魅れた思いを感じます。ここは古代の日本の心を求める探求の山であり、自然と歴史と神秘に包まれた霊峰でもあります。山頂からの眺めが大変素晴らしい、標高では他山にかないませんが、展望に関してはどこにも負けていません。

**絶景を誇る、鏡の鼻**  
市内最高峰「安満岳」から南へ伸びた崖の突端一帯を鏡の鼻といい、自然公園として、展望台・トイレ・駐車場・広場が整備されています。ここからの展望は素晴らしい、隠れキリシタンの里といわれる根獅子（ねしこ）や白砂の美しい根獅子の浜を眼下に、生月や阿波高島、そして遠く五島列島の島々も望めます。展望台からは、西海国立公園の区域が広く見渡すことができ、平戸を代表する景勝地といえます。その他、安満岳登山口あります

**市内最高峰の霊山、安満岳**  
標高514m、平戸市の最高峰です。山全体鬱蒼と茂り、清水湧き溪流となり神倉根川にそそがれています。山頂西面は断崖となり展望絶景です。山頂西面は断崖となり展望絶景です。山頂西面は断崖となり展望絶景です。山頂西面は断崖となり展望絶景です。

**食** ひらめ、あら、ウチワエ、など平戸の旬は海鮮宝庫!!

**歩** 山登りの専門家が一緒に歩きます。絶景を堪能してください

**探** 歴史のいっばい詰まった大航海時代の城下町を散策します

**癒** 疲れたら温泉でリフレッシュ。ツルツルの美肌に変身です

**開催期間**  
2009年1月16日～2009年5月27日 計16回開催

2009年1月							2009年2月							2009年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
25	26	27	28	29	30	31								29	30	31				

2009年4月							2009年5月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7
5	6	7	8	9	10	11	8	9	10	11	12	13	14	

平戸観光協会の企画ツアーの募集（同協会ホームページより）

の目的は既述の通り収益確保であるが、観光協会の本来の目的である誘客・宣伝活動にも大いに寄与するものがあるという。同協会によると、平戸には観光資源となりうる素材が数多く存在するものの、個々の素材のままではなかなか宣伝・売込みが困難であったものが、パッケージ化することによってそれらを具体的な商品として形にすることができ、訴求力が高まったという。また、もともと観光案内業務は行っていたが、旅行業を行うことで案内だけでなく全ての手配まで済ませることができるようになり、旅行者にとっての利便性が増すことにもなった。

現在、旅行商品の主な販売方法は協会のホームページを使ったネット上での広告と、高速道路のSA、PAや道の駅など個人旅行者が立ち寄りそうな場所へのチラシ配置である。今後、地場の中小旅行代理店と相互に委託販売を行うことなども検討されている。

#### 4. 長崎国際観光コンベンション協会の取組み

長崎市の社団法人長崎国際観光コンベンション協会は、08年12月に旅行業の登録を行った。同協会が旅行業に取組むに至った経緯は平戸市の場合とはやや異なり、いかに観光振興をはかるか、そのために観光協会として何をすべきかからスタートしている。旅行の形態が多様化しつつある

なかでは従来のような団体旅行頼みでは将来が展望しにくく、大手旅行会社が手がけにくいような、すなわちマス・ツーリズムには乗りにくいような、多様な個人のニーズを満たす旅行商品を企画し、販売を促進する必要があるとの考えから、観光協会が旅行者となってそうした機能を持つべく登録を行ったのである。

まち歩きを楽しむ「長崎さるく」のメニューには、旅行者がガイドブックを見ながら自分でコースをたどるもの（遊さるく）と、ガ

**浪漫ながさき 旅情報**

旅行業約款  
 旅行業登録取扱料金表  
 個人情報保護方針  
 お問い合わせ  
 全コース一覧  
 トップページ

カレンダーで選ぶ  
 予約確認

浪漫ながさき旅情報とは？

長崎の現地で参加の旅行イベントをご紹介します。現地ならではの情報を基に、長崎をより深く楽しく味わっていただくためのサイトです。おもしろ情報満載！ Feel Nagasaki!!

**新着コース**

**グルメ 体験 長崎 さるく**  
 愛八さん志願の舞台を訪ねて・料亭花月の皇族料理 13,900円(博多座5月石川さゆり特別公演「長崎ぶらぶら節」上演記念企画)

**グルメ 体験 長崎 さるく**  
 愛八さんとぶらぶら「料亭・貴族の宴会と丸山さるく」 4,900円(博多座5月石川さゆり特別公演「長崎ぶらぶら節」上演記念企画)

**グルメ 体験 長崎 さるく**  
 興隆寺のぼたんと抹茶料理-長崎の唐寺(とうでら) 「四福寺」参拝(日帰り) 7,000円

**コースメニュー**

お好きなジャンルをクリックしてください  
 選択したジャンルのコース一覧が表示されます

**グルメ**  
**祭り**  
**体験**

(社)長崎国際観光  
 長崎さるく  
 手ぶらで観光  
 あいながさき

長崎国際観光コンベンション協会の企画ツアー募集 (同協会ホームページより)

イドや専門家などに案内を受けながらまち歩きや各種体験などを行うもの（通<sup>つう</sup>さるく、学<sup>がく</sup>さるく）がある。後者の場合、旅行者はあらかじめ日時を決めて予約した上でコースの出発地点に行き、そこで案内者と合流してスタートするのが基本で、同協会が予約の窓口になっている。コースのなかには遠隔地に設定されているものもあるが（例えば池島にある炭鉱跡を体験するコース）、他のコースと同様に「学さるく」として現地（池島）での行程のみを申し込むことが可能なほか、同協会ではこれを現地までの往復行程まで含めてツアー商品としたものの販売も行っている。土地に不慣れな上に移動の手段を公共交通機関に頼るような旅行者にとっては、このようにワンパッケージ化されていた方が参加しやすいという場合も多いだろう。これは一例だが、旅行業の登録を行うことでこのように「できること」の範囲が広がったことになる。

同協会が旅行業の登録を行ったのは、長崎市という観光都市が持つ観光資源を旅行者に対して効率良く提供するのに必要なことからであり、旅行業については観光振興を図るための一機能という認識である。同協会は、この新しい機能を今後積極的に活用していく方針である。

## 5. 地域の手による観光振興

着地型観光とは、旅行商品を誰が企画・商品化するのかという観点からの言葉であり、内容は地域により様々なものとなり得る。地域の人々が、マス・ツーリズムで有効に活用されていない観光資源の見直しや掘り起こしを行い、その地域ならではの旅行商品に仕立てることに、マス・ツーリズムの対極としての意義がある。

地方の観光協会は、地元で観光に携わる事業者の意見交換や意思の疎通、親睦交流などの機能を持つことが多いが、今後着地型観光を推進する主体としての役割を担うとしたら、観光業者だけではなく、様々な地域資源の担い手との連携も重要となろう。また、平戸観光協会や長崎国際観光コンベンション協会のように、必要に応じて旅行業の登録を行うといった積極的な取組みも期待される。

（野邊 幸昌）